

◎組合訪問「東芝メディカルシステムズ労働組合」

インターネットを活用した効率的運営と —組合員とのコミュニケーションのコラボレーションをめざして

Q1 まず東芝メディカルシステムズ労働組合の成り立ちと現在の組合状況についてお聞きしたいと思います。

堀江 東芝メディカルシステムズ労働組合は、昨年2005年6月12日に誕生したばかりの新しい労働組合で、全国70余拠点に約2200名の組合員がいます。その前身は、昭和34年東芝労組玉川支部の結成に遡ります。昭和54年に東芝玉川工場の那須への工場移転に伴い、組合員も移動し、東芝労働組合那須支部に名称を変えました。その後、(株)東芝の医用機器事業(那須事業場1000名)が(株)東芝から分社され、東芝メディカル(北海道から九州まで70数カ所の拠点を持つ営業・サービス部門1200名)との統合により、2003年10月に東芝メディカルシステムズ株式会社(以下、TMSC)が発足しました。このとき旧東芝労働組合那須支部組合員はTMSCに出向し、2004年10月に転籍しました。旧東芝メデ

ウェブ労使協議



ウェブ中央委員会



イカルには組合が無かったことから、この転籍に向けて、TMSCとしての全国の組織化を目指しましたが、時間的に間に合わず、TMSCの組合としては旧東芝労働組合那須支部の組合員を母体とした那須事業所の暫定組合として東芝メディカルシステムズ那須労働組合を結成しました。その後、全国70数カ所の営業・サービス部門の従業員の組織化を精力的に行い、2005年6月12日に晴れて全国統一組織として東芝メディカルシステムズ労働組合を結成しました。

組合組織は、支部体制にとらず、会社組織に合わせて全国を15の地区に分け、本部15地区体制で本部主導の下、活動を推進しています。現在の執行部の役員体制は、委員長、副委員長、書記長、執行委員7名、会計監事2名の体制で、専従は委員長と書記長と2名の書記(女性)で本部書記局を切り盛りしています。10名の執行部のうち6名は、組合経験の無かった旧東芝メデ

●東芝メディカルシステムズ労働組合 執行委員長

堀江 明 ほりえ・あきら

専従歴は東芝労働組合那須支部時代を含め6年。那須支部の非専従執行委員として4年、支部書記長を2年、支部委員長3年務めた後、05年6月東芝メディカルシステムズ労働組合結成により、委員長に就任(現在)。専従として従事する前は、技術者として医用機器の開発に従事。執行委員のときより、早くから支部のホームページを開設するなど組合活動へITを取り入れてきた。



カル出身で、また、全国組織の組合として非専従役員は、那須、埼玉、東京、静岡、広島、福岡と全国に勤務しています。

Q2 東芝メディカルシステムズ労働組合の伝統の中で、大切にされているものは何ですか。

堀江 玉川時代から大切にしている伝統は、組合員の安心・安全を大切にするということです。まだ結成されてから1年生の新しい組合ですので、まずは、組合員の皆さんから「組外があつて本場に良かった」と言われるようになることをめざして、執行部



東芝メディカルシステムズ労働組合



組合事務所

としては、毎日試行錯誤をしながら、努力しているところです。

東芝メディカルシステムズ労組の主な活動の特徴についてご説明ください。

Q3 堀江 特徴としては、営業・サービス拠点が北海道から九州まで点在しており、一カ所に集まることから、交通費や物理的時間がかかることから、会議をインターネットのウェブ会議システムを使って効率的な運営を行っていることです。月1回の労使会議や執行委員会などの会議は、実際に本社で行うのですが、各地方の執行委員はウェブ上で参加し、リアルタイムで会議の内容を聞くことができると共に、発言することもできます。また、代表者会議や中央委員会、職場オルグも必要に応じてウェブ会議により実施しています。ウェブ会議のメリットは効率的で費用がかからず、時間が節約できることです。デメリットは、実際にフェイス・トゥー・フェイスで顔を合わせられないことですが、執行部全員が年に4回以上は実際に会うようになっています。春闘の団体交渉の要求提出の時と、集約の回答提示の時です。それから定期

大会の議案書の確認と毎年10月と4月にあ
る社長出席の中央労使協の場などです。

Q4 現在、特に重点を置いている活動についてお話しください。

堀江 結成後間もない組合ですが、全国の組合員の皆さんと共に、会社の成長発展を願う中で、「労働条件の維持向上を図ると共に、やりがいを持って安心して働ける職場づくり」に重点を置いて取り組んでいます。様々な組合活動を5つの分野に分け、労働政策部、経営政策部、教育広報部、福祉政策部、組織部の5つの専門部を軸に活動を推進しています。特に、全国に点在する営業・サービスの組合員のニーズに応えるため、組合員専用のホームページを充実させ、ホームページにアクセスすれば、組合活動の全てを理解できるように、組合ニュースから、委員長レポート、春闘結果、規約から福祉サービスまで一目でわかるように工夫しています。リアルタイムに情報を掲載するため、広報専門の書記を一人置いています。サービス・営業の組合員のニーズを拾い上げるために、ホームページによるアンケートなども実施しています。

Q5 現在、東芝メディカルシステムズ労組として抱えている課題および課題への取り組みについてお話しください。

堀江 組合員が那須の本社と全国の70数カ所の営業・サービス拠点に点在している現状の中で、新しいウェブ技術を駆使しながら、組合員とのコミュニケーションをいかに取ることができかが課題です。どうしても、ホームページは、紙の印刷物と違って、組合員自らがアクセスしにくい限り、情報を得られないので、組合のホームページにアクセスしてもらえかが課題です。コミュニケーションと言えば、那須事業所でも交通の便が良くないので、ほとんどの組合員がマイカー通勤ですので、仕事が終わった後、ちょっと一杯という訳にはいかないのです。那須事業所も含め、全国の職場のコミュニケーションをいかに円滑にとることができかが課題です。

Q6 最後に労働組合の活動を進める上で、ご自身のモットー、心がけていることがあれば教えてください。あなたにとって、労働組合の役割とは何だと考えますか？

堀江 まだできたてのほやほやの組合なので、「困ったことがあれば、まず、組合へ」をスローガンの第一に掲げています。インターネットを活用し、効率的な運営をめざしつつ、執行部全員が、組合員とのコミュニケーションを大切に、ていねいに組合員にわかってもらえるような組合活動を地道にコツコツを続けていこうと決意して取り組んでいます。何しろ「組合があつて良かった」と組合員の皆さんに言ってもらえることをめざして、これからも頑張っていきたいと思えます。

(聞き手：IMFJC組織総務局 渡辺)